**ハンドマイク街頭演説原稿例　コロナから命守れ・柔軟な学校対策を**

二〇二一年八月三〇日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

みなさん、全国で新規感染者が連日２万人近くになるなど、感染爆発が止まりません。埼玉県でも、一日１５００人前後となかなか減らず、自宅療養者はすでに２万人を超え、正確な数字が発表できない状況です。県内の病院でも、コロナ患者の入院受け入れがすでに難しくなり、医療崩壊ともいうべき事態がすすんでいます。このような中、日本共産党は、国民の命を守ることを最優先に、３点にしぼって菅首相に緊急提案をおこないました。

一つは、症状に応じて必要な医療をすべての患者に提供することです。そのために、まず「原則自宅療養」の政府方針を完全に撤回すべきです。そのうえで、限られた医療資源を最も効率的に活用するために、医療機能を強化した宿泊療養施設や、臨時の医療施設などを、大規模に増設・確保することを強く求めます。あわせて、コロナ入院病床をさらに確保しながら、訪問看護などの在宅患者への往診や訪問看護などを支える体制を抜本的に強化することを求めています。その実現のために、政府があらゆる力を投入し、責任もって医師・看護師を確保すべきです。さらに、日本共産党は、すべての医療機関を対象にした減収ほてんと財政支援、コロナに関わるすべての医療従事者への待遇改善を早急に実施するようあらためて強く求めます。

二つは、感染伝播の鎖を断つために、感染拡大が見られる事業所や、学校、保育園、学童保育で大規模検査を政府が主導的に実行することを強く求めます。子どもたちに感染が広がりやすいのがデルタ株の特徴です。学校再開で感染爆発に拍車をかけることは絶対に避けなければなりません。一方で、一斉休校などで子どもの成長に深刻なダメージを与え、不安定雇用のもとで働く保護者が仕事を失うことも防ぐ必要があります。自主的な登校見合わせを可能にし、その子の学びなどを支援する、分散登校やオンライン授業を活用した柔軟な学校運営を認めるなど、「災害級」の感染状況にふさわしい弾力的な対応を強く求めていきます。

三つは、国民に誤ったメッセージとなった五輪開催を反省し、パラリンピックの中止をいまからでも決断する。すべての学校連携観戦をただちに中止することを求めます。

　みなさん、いま、菅自公政権に求められていることは、野党が憲法にもとづき要求している臨時国会をただちに開くことではないでしょうか。臨時国会では、日本共産党は、科学を無視し、国民への説明を果たさず、コロナ対応にまで「自己責任論」を持ち込んだ、この一年あまりの安倍・菅政権のコロナ対応の誤りを大本から転換するために厳しく追及していきます。総選挙では、政権担当能力を失っている菅自公政権を何としても変えようではありませんか。比例代表では、日本共産党をぜひ大きく伸ばしてください。みなさまのお力添えを心から訴えます。よろしくお願いします。

　最後に、いま話題の政治バラエティ映画・「パンケーキを毒見する」にも登場する「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）